

管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査

平成23年度厚生労働科学研究事業

「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」

1. 貴施設（修士課程）に関する下記の質問について、管理栄養士の資格を有する教員1名がお答えください。
2. 本質問紙を「大学院生用」のマークシートと一緒にご返送ください。
3. 本調査に関連するご意見がございましたら、自由記述欄に記入をお願いします。
4. 修士課程大学院生用の質問紙とマークシートを対象者に配布していただく場合は、管理栄養士の有資格者をお願いいたします（管理栄養士の資格を持たない院生に回答していただく必要はありません）。
5. 同様の質問紙を用いた調査を、卒後5年以内の管理栄養士を対象に現在実施中です。社会人入学の修士課程院生で最近同様の調査に協力された場合でも、再度本調査にご回答くださるよう、質問紙配布時にご説明をお願いいたします。

お忙しいところご負担をおかけ致しますが、何卒ご協力をお願い申し上げます。

本調査の内容に関するお問い合わせ先は以下のとおりです。

伊達ちぐさ 〒690-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部食環境栄養課程
TEL&FAX: 079-292-9334（直通） E-mail: chigusa@shse.u-hyogo.ac.jp

貴大学院 修士課程 ### 専攻（施設毎に挿入）についてお尋ねします。

いずれも、平成23年10月時点の状況をお答えください

1. 修士院生の総数（休学中の者を除く） () 名
2. 1のうち、管理栄養士の資格を有する修士院生の総数 () 名
3. 修士論文指導を担当できる教員の数 () 名
4. 3のうち、管理栄養士の資格を有する教員の数 () 名
5. 貴専攻課程における人材育成の特徴について、最も近いものを1つ選び丸で囲んでください
1 研究者養成 2 高度専門職業人養成 3 どちらともいえない 4 不明

〔自由記述欄〕

●大学院アンケート調査のための封入物一覧

この度は、大学院生を対象とした調査で大変お世話になります。
今回同封いたしました調査に関連する書類等は以下の①から⑦の7種類です。
不足のものがございましたら、恐縮ですが研究代表者（伊達）までお問い合わせください。

① 貴大学院基礎調査（1枚） [記入後マークシート返送時に同封してください]

② マークシート記入説明書

③ 質問用紙

④ マークシート

} ②③④は大学院生1名につき各1部配布

⑤ 返信用封筒（1枚） [返送時は、切手を貼らずにご投函ください]

⑥ 厚紙（1枚） [マークシート保護のため、返信用封筒に入れてください]

⑦ 返送品チェックリスト [記入後、マークシート返送時に同封してください]

返送時のチェックリスト（この用紙は返送時に同封してください）

同封した返送物は次の通りです。

（返信封筒に入れたものを、確認のため以下の□にチェックを入れてください。また大学院生用マークシートの枚数を□に記入してください。未記入の用紙を返送する必要はありません）

貴大学院に関する質問票（A4用紙1枚です）

院生用マークシート

枚です

管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査へのご協力お願い

平成23年度厚生労働科学研究事業

「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」

1. 修士課程の大学院生で管理栄養士の資格がある人（休学中の人は除く）が教えてください。
2. 本調査は試験ではありません。また、個人の能力や施設ごとの実態を調べるものではありません。得られた情報は厳正に管理し、標記研究事業の目的以外には使用しません。
3. 本調査は任意の調査であり、回答しないことによって不利益を被ることはありません。
4. 本調査の内容に関する質問は、この質問紙を配布して下さった先生を通して、研究班（班長：兵庫建立大学 伊達ちぐさ）までお問い合わせください。
5. 調査票は、あなた自身の管理栄養士としての専門的な実践能力（コンピテンシー）の到達度に関する質問（問1～40）と、年齢などの基礎項目に関する質問（問41～59）を含みます。該当する質問にもれなく教えてください。
6. 回答は、別紙のマークシートに、次のことに注意して記入してください。

マークシート記入上の注意点

- (1) マークシートは1枚です。
- (2) 左上の氏名、年月日、および番号欄は空白のままにしてください。
- (3) 各質問に対する答えは1～5の数字の中からあてはまるもの1つを選び、マークシート上の該当する番号をはっきりとマークしてください。
- (4) 必ずHB～Bの濃さの鉛筆かシャープペンシルを使用してください。ボールペンやペンは使えません。
- (5) マークのしかたが薄いもの、正しくマークされていないものは読み取れません。
- (6) 間違ってマークしたところを訂正する場合は、鉛筆のあとが残らないように、プラスチック消しゴムで完全に消してください。修正液など消しゴム以外のものは使えません。
- (7) マークシートは折り曲げないようにしてください。

I. 1~40の項目について、あなたにもっともあてはまる回答を、1~5よりひとつ選び、マークシートにその番号をマークしてください。

問1~4では、あなたの職業意識についておたずねします。
各設問への回答を1~5の番号で答えてください。

- | |
|---|
| 1: 全くそう思わない
2: そう思わない
3: どちらともいえない
4: そう思う
5: かなりそう思う |
|---|

-
- 1 管理栄養士という職業に就くこと（就いていること）を誇りに思う
 - 2 自分は、管理栄養士という職業に向いている
 - 3 食を通して人々の健康と幸せに寄与したい
 - 4 管理栄養士としての専門的な知識と技術を向上させたい
-

問5~40は管理栄養士としての専門的な実践能力に関する項目です。あなたはこれまで学んできたことを基礎として、現時点でどの程度できると考えますか。1~5の番号で答えてください。

- | |
|---|
| 1: 全くできない
2: できない
3: どちらともいえない
4: できる
5: 十分にできる |
|---|

-
- 5 コミュニケーションによって、良好な人間関係やネットワークを築く
 - 6 自分に与えられた役割を認識し、他の職種と相互理解しながら協働する
 - 7 患者・クライアント・住民への倫理的配慮（人権の尊重、インフォームドコンセント、個人情報保護）を行う
 - 8 健康・栄養に関する統計情報を収集し、現状を把握する
 - 9 関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する
 - 10 社会における医療・栄養問題や食糧・環境問題に関する情報を集める
 - 11 個人や地域の栄養課題の解決のために、調査研究を計画・実施する
 - 12 調査研究により得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する
 - 13 人体のエネルギーバランスや各栄養素の働きや代謝を理解し、説明を行う
 - 14 食品成分・特性について理解し、献立作成や調理を行う
 - 15 対象者のライフステージ・ライフスタイル・嗜好・摂食機能等に応じた献立を作成する
 - 16 食中毒予防など、適切な衛生管理を行う
 - 17 食品の規格基準、安全に関する法規や制度を理解し、健康被害を防止するための説明を行う
 - 18 保健・医療・福祉・健康づくりに関する法規や制度の現状を把握する
 - 19 対象者（対象集団）のエネルギーや栄養素の摂取の過不足を防ぐため、食事摂取基準を活用する
 - 20 食品成分表の特性を理解し、献立作成や栄養教育に活用する
-

（マークシートの列が変わります）

- 21 対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する
- 22 対象者の状況を受容し、行動変容を促すために、カウンセリングのスキルを活用する
- 23 目的や対象者に応じた食事調査法を選択・実施し、アセスメントに用いる
- 24 対象者・喫食者の食に関する知識、態度、行動をアセスメントする
- 25 対象者の身体状況や目的に応じたアセスメント方法を選択し、実施する
- 26 血液及び尿中の代表的な生化学成分値を判定し、アセスメントに用いる
- 27 問診、カルテ、看護記録やバイタルサインなどの情報をアセスメントに活用する
- 28 アセスメントの結果から食生活の改善すべき課題を抽出する
- 29 課題の中から優先順位を決定し、食生活改善のための目標を設定する
- 30 食生活改善のための目標の達成に向けた計画を立てる
- 31 対象者のライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育を実施する
- 32 計画実施中や実施後の経過をモニタリングし、評価を行う
- 33 評価に基づき、必要な計画の見直しと修正を行う
- 34 疫学的な考え方に基づき、地域のアセスメントをする
- 35 地域の栄養課題を解決するのに必要な社会資源を把握する
- 36 地域の栄養課題を解決するために、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めて改善計画を立てる
- 37 医療における専門職種役割を理解し、管理栄養士の役割について説明を行う
- 38 対象者の病状や栄養状態に応じた献立作成や食事形態の提案を行う
- 39 対象者の病状や栄養状態に応じた栄養指導を行う
- 40 多数の人々への食事提供（発注、購買、検収、保管、大量調理、衛生管理等）を行う

(マークシートの列が変わります)

Ⅱ. あなた自身のことについておたずねします。それぞれの質問について、回答をひとつ選び、マークシートにその番号をマークしてください。

- 41 年齢をお答えください。
1 21-25 歳 2 26-30 歳 3 31-35 歳 4 36-40 歳 5 41 歳以上
- 42 性別をお答えください。
1 女性 2 男性
- 43 大学院での在籍年数をお答えください。
1 1 年目 2 2 年目 3 3 年目 4 4 年目
- 44 管理栄養士養成施設の卒業生ですか。
1 はい (45 にすすむ) 2 いいえ (46 にすすむ)
- 45 管理栄養士養成施設の卒業生 (44 で「1」とお答えの方) におたずねします。
卒業年次は次のどちらですか。
1 平成 16 年度 (平成 17 年 3 月卒業) 以前 2 平成 17 年度 (平成 18 年 3 月卒業) 以降
- 46 卒業した大学または養成施設において、卒業研究を行いましたか。
1 はい 2 いいえ
- 47 社会人院生ですか。
1 はい (48 にすすむ) 2 いいえ (49 にすすむ)
- 48 社会人院生 (47 で「1」とお答えの方) におたずねします。管理栄養士 (栄養士養成施設の教員を含む) として働いていますか。
1 はい 2 いいえ
- 49 あなたの修士論文 (または課題研究) のテーマは、次のどの分野にあてはまりますか。
1 栄養教育 2 公衆栄養 3 臨床栄養 4 給食経営管理 5 1~4 以外
- 50 あなたの指導教員は、管理栄養士免許を有する教員ですか。
1 はい 2 いいえ
- 51 あなたが所属するコースの人材養成の特徴について、あてはまるものを 1 つ選んでください。
1 教育者・研究者養成 2 高度専門職業人養成 3 どちらともいえない 4 不明
- 52 あなたは、現在日本栄養士会に入会していますか。
1 はい 2 いいえ
- 53 現在、健康・医療もしくは食・栄養に関する学会 (研究会) に入会していますか。
1 はい 2 いいえ
- 54 大学院在籍中に、上記の学会の学術集会や地方会において、発表をしたことがありますか。
1 第一著者として発表したことがある
2 第一著者で発表したことはないが、研究グループのひとりとして共著で発表したことがある
3 発表したことはない
- 55 大学院在籍中に、上記の学会の学会誌に論文を投稿したことがありますか。
1 第一著者として投稿したことがある
2 第一著者で投稿したことはないが、研究グループのひとりとして共著で投稿したことがある
3 投稿したことはない

- 56 修士課程修了後は、どのような進路を希望（あるいは内定）していますか。
 ※社会人院生の方で、現在の仕事を続ける場合も「2 就職」を選んでください。
 1 進学（57 にすすむ） 2 就職（58 にすすむ）
 3 その他（これでアンケートは終わりです）
- 57 進学希望の方（56 で「1」とお答えの方）におたずねします。あなたの進学希望先をお答えください。（これでアンケートは終わりです）
 1 博士課程（栄養関連分野） 2 博士課程（栄養関連分野以外） 3 その他
- 58 就職希望の方（56 で「2」とお答えの方）におたずねします。あなたが希望、あるいは内定している就職先で、採用条件となる免許は次のどれですか。
 1 管理栄養士免許 2 栄養士免許 3 その他の免許 4 免許は採用条件ではない
- 59 就職希望の方におたずねします。あなたが就職を希望、あるいは内定している職場を下からひとつ選び、59～60 のマークシート欄に、記入例にならって記入してください。

※社会人院生の方は、現在の職場をお答えください。

- 11 行政（保健所・保健センターなど）
 12 病院（病院・医院・老健など）、検診センター
 13 学校（幼稚園・学校・給食センターなど）
 14 企業または事業所（従業員の健康管理など）
 15 給食受託企業（給食会社）
 21 高齢者福祉施設（老人ホーム・デイサービスセンターなど）
 22 児童福祉施設（保育所など）
 23 障がい者施設（心身障がい児施設・身体障がい者療護施設など）
 24 その他の福祉施設
 31 企業（栄養や食品に関連がある仕事）
 32 企業（製薬会社・薬局など）
 33 企業（上記以外）
 34 起業
 35 自営
 41 研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設）
 42 研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設以外）
 43 研究機関
 51 配属先未定（公務員）
 52 配属先未定（公務員以外）
 53 その他

マーク記入例

「12 病院」をマークする場合
 問 59（10 の位として使用）の「1」と
 問 60（1 の位として使用）の「2」の
 2つをマークしてください。

59	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
60	<input type="radio"/> ①	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤

~~~~~ これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。~~~~~



平成23年9月吉日

関係各位

兵庫県立大学環境人間学部  
教授 伊達 ちぐさ

管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査のお願い（依頼）

錦秋の候、貴職におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成23年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）の交付を受け、「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究（H22－循環器等（生習）－指定－016）」の主任研究者を務めさせていただいております。

本研究課題は、保健・医療サービスの場で、管理栄養士が栄養管理の専門職として、社会の要求に応えることができる人材に養成されるためのシステム構築を目的としています。この度、管理栄養士として勤務して5～6年までの方の栄養管理に関するコンピテンシー（専門的な実践的能力）の指標を開発し、社団法人日本栄養士会中村丁次会長のご支援を得て、誕生日が1980年4月1日以降の日本栄養士会会員様を対象に、管理栄養士初任者としてのコンピテンシー指標到達度についての調査を実施することになりました。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮でございますが、本調査へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、本調査は個人の能力を調べるものではなく、住所・氏名等の個人を特定できる情報を収集しません。質問にはマークシートで回答していただきますが、マークシートを返送する際には、封筒にも住所・氏名等を一切記載する必要はありません。得られた情報は厳正に管理され、本研究事業の目的以外には使用されないことを申し添えます。

平成 23 年 9 月 吉日

関 係 各 位

社団法人 日本栄養士会  
会 長 中村 丁次  
(公印省略)

### アンケート調査への協力をお願い

貴職におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

近年、我が国の保健・医療・福祉など管理栄養士を取り巻く情勢が大きく変化しつつあります。そのような中でこれからの栄養界を担う若手の管理栄養士の皆様への期待は大きなものがあります。

そこで、これからの管理栄養士がどのような能力を備えるべきかや不足している能力はどのようなものかなどを検証し、今後の管理栄養士養成や卒後教育の在り方を探ることは大変重要なものとなっております。

今回送付させていただいたアンケートは厚生労働省の平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業における「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」（伊達ちぐさ主任研究者）の主要な研究課題として実施するものです。調査用紙は日本栄養士会会員の管理栄養士で 1980 年 4 月 1 日以降に生まれた方に送付させていただきました。このアンケート調査により若手の管理栄養士の皆様への今後の卒後教育や、管理栄養士養成における教育のあり方を検討する貴重な資料を得ることができます。たいへんお忙しいところ恐縮ですが、調査の重要性をご認識いただきご協力をお願いします。

## 管理栄養士教育システム構築に関する基礎調査

平成23年度厚生労働科学研究事業

「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成のシステム構築に関する研究」

1. 本調査の対象は、1980年4月1日以降生まれの管理栄養士です。
2. 本調査は試験ではありません。また、個人の能力を調べるものではありません。得られた情報は厳正に管理し、標記研究事業の目的以外には使用しません。
3. 本調査は任意の調査であり、回答しないことによって不利益を被ることはありません。本調査の内容に関するお問い合わせ先は以下のとおりです。

伊達ちぐさ 〒690-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部食環境栄養課程  
TEL&FAX: 079-292-9334 (直通) E-mail: chigusa@shse.u-hyogo.ac.jp

4. 調査票は、管理栄養士としての専門的実践能力（コンピテンシー）に関する質問（問1～58）と、回答者に関する質問（問59～81）を含みます。該当する質問にもれなくお答えください。
5. 回答は、別紙のマークシートに、次のことに注意してご記入ください。

### マークシート記入上の注意点

- (1) マークシートは1枚です。
- (2) 左上の氏名、年月日、および番号欄は空白のままにしてください。
- (3) 各質問に対する答えは1～5の数字の中からあてはまるもの1つを選び、マークシート上の該当する番号をはっきりとマークしてください。
- (4) 必ずHB～Bの濃さの鉛筆かシャープペンシルを使用してください。ボールペンやペンは使えません。
- (5) マークのしかたが薄いもの、正しくマークされていないものは読み取れません。
- (6) 間違ってマークしたところを訂正する場合は、鉛筆のあとが残らないように、プラスチック消しゴムで完全に消してください。修正液など消しゴム以外のものは使えません。
- (7) マークシートは折り曲げないようにしてください。

### 返送方法

- (1) マークシートは折り曲げずに、同封の封筒に同封の厚紙と一緒に入れてください。
- (2) 封筒に、差出人の住所・氏名を記入する必要はありません。
- (3) 切手は不要です。ポストに期限までに投函してください。

### 返送期限

**平成 23 年 10 月 31 日までにご投函ください。**

## 管理栄養士初任者用質問紙

I. 1～58の項目について、あなたにもっともあてはまる回答を、1～5よりひとつ選び、マークシートにその番号をマークしてください。

問1～4では、あなたの職業意識についておたずねします。

各設問への回答を1～5の番号で答えてください。

- |              |
|--------------|
| 1: 全くそう思わない  |
| 2: そう思わない    |
| 3: どちらともいえない |
| 4: そう思う      |
| 5: かなりそう思う   |

- 1 管理栄養士という職業に就いていることを誇りに思う
- 2 自分は、管理栄養士という職業に向いている
- 3 食を通して人々の健康と幸せに寄与したい
- 4 管理栄養士としての専門的な知識と技術のための自己研鑽に努めたい

問5～58は管理栄養士としての専門的な実践能力に関する項目です。  
あなたの業務上の役割や機会とは関係なく、あなたはこれらのことを現時点でどの程度できますか。1～5の番号で答えてください。

- |              |
|--------------|
| 1: 全くできない    |
| 2: できない      |
| 3: どちらともいえない |
| 4: できる       |
| 5: 十分にできる    |

- 5 コミュニケーションによって、良好な人間関係やネットワークを築く
- 6 自分に与えられた役割を認識し、他の職種と相互理解しながら協働する
- 7 困難な課題にも、チャレンジする
- 8 情報発信や社会活動を通して積極的に社会に貢献する
- 9 患者・クライアント・住民への倫理的配慮（人権の尊重、インフォームドコンセント、個人情報保護）を行う
- 10 専門的な知識や情報並びに具体的な方法を、対象者や家族に理解してもらえるように説明する
- 11 施設の理念や方針、ならびに根拠法令や制度を理解し、適切な行動をする
- 12 健康・栄養に関する統計情報を収集し、現状を把握する
- 13 関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する
- 14 社会における医療・栄養問題や食糧・環境問題に関する情報を集める
- 15 個人や地域の栄養課題の解決のために、調査研究を計画・実施する
- 16 調査研究により得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する
- 17 人体のエネルギーバランスや各栄養素の働きや代謝を理解して説明を行う
- 18 食品成分・特性について理解し、献立作成や調理を行う
- 19 対象者のライフステージ・ライフスタイル・嗜好・摂食機能等に応じた献立を作成する
- 20 食中毒予防など、適切な衛生管理を行う

(マークシートの列が変わります)

- 21 食品の規格基準、安全に関する法規や制度を理解し、健康被害を防止するための説明を行う
- 22 保健・医療・福祉・健康づくりに関する法規や制度の現状を把握する
- 23 対象者（対象集団）のエネルギーや栄養素の摂取の過不足を防ぐため、食事摂取基準を活用する
- 24 食品成分表の特性を理解し、献立作成や栄養教育に活用する

## 管理栄養士初任者用質問紙

---

- 25 対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する
  - 26 対象者の状況を受容し、行動変容を促すために、カウンセリングのスキルを活用する
  - 27 目的や対象者に応じた食事調査法を選択・実施し、アセスメントに用いる
  - 28 対象者・喫食者の食に関する知識、態度、行動をアセスメントする
  - 29 対象者の身体状況や目的に応じたアセスメント方法を選択し、実施する
  - 30 血液及び尿中の代表的な生化学成分値を判定し、アセスメントに用いる
  - 31 問診、カルテ、看護記録やバイタルサインなどの情報をアセスメントに活用する
  - 32 アセスメントの結果から食生活の改善すべき課題を抽出する
  - 33 課題の中から優先順位を決定し、食生活改善のための目標を設定する
  - 34 食生活改善のための目標の達成に向けた計画を立てる
  - 35 対象者のライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育を実施する
  - 36 計画実施中や実施後の経過をモニタリングし、評価を行う
  - 37 評価に基づき、必要な計画の見直しと修正を行う
  - 38 疫学的な考え方に基づき、地域のアセスメントをする
  - 39 地域の栄養課題を解決するのに必要な社会資源を把握する
  - 40 地域の栄養課題を解決するために、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めて改善計画を立てる
- 

### (マークシートの列が変わります)

---

- 41 地球環境（生態系）と食べ物、並びに健康の観点から、社会情勢の変化に適応した取組を行う
  - 42 エンパワメントの考え方に基づき、健康づくりに関わる地区組織の育成を行う
  - 43 医療における専門職種の役割を理解し、管理栄養士の役割について説明を行う
  - 44 対象者の病状や栄養状態に応じた献立作成や食事形態の提案を行う
  - 45 対象者の病状や栄養状態に応じた栄養指導を行う
  - 46 チーム医療に参画し、専門的な立場から栄養補給量と方法を提案し、栄養管理を行う
  - 47 SOAPなどに基づく記録を行い、チーム内で情報を共有する
  - 48 診療ガイドラインを理解し、それを活用して栄養管理を行う
  - 49 自己決定を促すために、対象者や家族に対して栄養管理の方針を説明し同意を得る
  - 50 対象者のADLやQOL、生きがいを踏まえて食生活の提案を行う
  - 51 多数の人々への食事提供（発注、購買、検収、保管、大量調理、衛生管理等）を行う
  - 52 対象者の栄養管理を目的とした、給食の品質管理を行う
  - 53 給食施設の資源（人材、食材、お金、設備、方法）を把握し、効率的に活用する
  - 54 給食経営上の制約の中で、利用者ニーズをくみ上げた栄養管理を行う
  - 55 対象者に対し、給食を活用した栄養教育・情報提供などを行う
  - 56 給食施設におけるリスク（食中毒、誤配、異物混入、事故、災害など）の被害を予測し対応を行う
  - 57 給食業務従事者の能力や業務状況に配慮し、協力体制を作る
  - 58 給食の運営上の課題解決に向けて、積極的に周囲や関係者に働きかける
-

管理栄養士初任者用質問紙

Ⅱ. あなた自身のことについておたずねします。それぞれの質問について、回答をひとつ選び、マークシートにその番号をマークしてください。

59 年齢をお答えください。

- 1 22-23歳    2 24-25歳    3 26-27歳    4 28-29歳    5 30歳以上

60 性別をお答えください。

- 1 女性    2 男性

(マークシートの列が変わります)

61 あなたが所属する、日本栄養士会の職域協議会は、次のどれですか。

- 1 病院 (63にすすむ)    2 福祉 (63にすすむ)    3 行政 (63にすすむ)  
4 学校 (63にすすむ)    5 1~4以外 (62にすすむ)

62 61で「5」とお答えの方におたずねします。所属する職域協議会は次の1~4のどれですか。

- 1 地域活動    2 集団健康管理    3 研究教育    4 不明

63 あなたが所属する、日本栄養士会のブロックは、次のどれですか。

- 1 北海道・東北 (65にすすむ)    2 関東甲信越 (65にすすむ)    3 東海・北陸 (65にすすむ)  
4 近畿 (65にすすむ)    5 1~4以外 (64にすすむ)

64 63で「5」とお答えの方におたずねします。所属するブロックは次のどれですか。

- 1 中国・四国    2 九州

65 管理栄養士養成施設の卒業生ですか。

- 1 はい (66にすすむ)    2 いいえ (67にすすむ)

66 管理栄養士養成施設の卒業生 (65で「1」とお答えの方)におたずねします。

卒業年次は何年ですか。

- 1 平成16年度 (平成17年3月卒業) 以前    2 平成17年度 (平成18年3月卒業) 以降

67 卒業した大学または養成施設において、卒業研究を行いましたか。

- 1 はい    2 いいえ

68 学位 (最終) をお答えください。

- 1 学士    2 修士    3 博士    4 その他

69 現在、大学院に在学中ですか。

- 1 はい (修士課程に在学中)    2 はい (博士課程に在学中)    3 いいえ

70 現在の仕事での勤務年数は何年ですか (本年度も1年と数えてください)。

- 1 1~2年    2 3~4年    3 5~6年    4 7~8年    5 9年以上

71 管理栄養士・栄養士としての総勤務年数は何年ですか (本年度も1年と数えてください)。

- 1 1~2年    2 3~4年    3 5~6年    4 7~8年    5 9年以上

72 現在の仕事の採用条件である免許は次のどれですか。

- 1 管理栄養士免許    2 栄養士免許    3 その他の免許    4 免許は採用条件ではない

73 栄養士会の生涯学習に、過去1年間でどの程度参加しましたか。

- 1 0回    2 1回    3 2回    4 3回    5 4回以上

74 現在、健康・医療もしくは食・栄養に関する学会 (研究会) に入会していますか。

- 1 はい    2 いいえ

管理栄養士初任者用質問紙

- 75 上記の学会の学術集会や地方会に、過去1年間でどの程度参加しましたか。  
 1 0回      2 1回      3 2回      4 3回      5 4回以上
- 76 上記の学会の学術集会や地方会において、発表をしたことがありますか。  
 1 第一著者として発表したことがある  
 2 第一著者で発表したことはないが、研究グループのひとりとして共著で発表したことがある  
 3 発表したことはない
- 77 上記の学会の学会誌に論文を投稿したことがありますか。  
 1 第一著者として投稿したことがある  
 2 第一著者で投稿したことはないが、研究グループのひとりとして共著で投稿したことがある  
 3 投稿したことはない
- 78 あなたの現在の職場における、雇用形態は次のどれですか。  
 1 常勤（79にすすむ）      2 非常勤（嘱託、パートタイマーを含む）（79にすすむ）  
 3 職業に就いていない（これでアンケートは終わりです）
- 79 あなたの現在の職場では、管理栄養士の配置は1名（1人職種）ですか、複数配置ですか。  
 1 1人職種      2 複数配置（同一職場内）  
 3 複数配置だが、勤務場所では1人で仕事をしている      4 その他
- 80 先輩管理栄養士から業務に関する指導を受けていますか（職場が同一でない場合も含みます）。  
 1 はい      2 いいえ

（マークシートの列が変わります）

81 あなたが現在勤務する職場を下からひとつ選び、81～82のマークシート欄に、記入例にならって記入してください。複数の職場にまたがる場合は、主な職場をお答えください。

- 11 行政（保健所・保健センターなど）  
 12 病院（病院・医院・老健など）、検診センター  
 13 学校（幼稚園・学校・給食センターなど）  
 14 企業または事業所（従業員の健康管理など）  
 15 給食受託企業（給食会社）  
 21 高齢者福祉施設（老人ホーム・デイサービスセンターなど）  
 22 児童福祉施設（保育所など）  
 23 障がい者施設（心身障がい児施設・身体障がい者療護施設など）  
 24 その他の福祉施設  
 31 企業（栄養や食品に関連がある仕事）  
 32 企業（製薬会社・薬局など）  
 33 企業（上記以外）  
 34 起業  
 35 自営  
 41 研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設）  
 42 研究教育（管理栄養士・栄養士養成施設以外）  
 43 研究機関  
 51 その他

マーク記入例

「12 病院」をマークする場合  
 問81（10の位として使用）の「1」と  
 問82（1の位として使用）の「2」の  
 2つをマークしてください。

|    |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|
| 81 | ● | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 82 | ① | ● | ③ | ④ | ⑤ |

～～～ これでアンケートは終わりです。お忙しいところご協力ありがとうございました ～～～

|      |  |
|------|--|
| フリガナ |  |
| 氏名   |  |

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| 年 | 月 | 日 |  |
|---|---|---|--|

1. 記入欄・マーク欄以外には記入しないで下さい。
2. 鉛筆で、しっかり濃くマークして下さい。
3. 間違った場合には、消しゴムで、きれいに消して下さい。

マーク例

|     |  |     |  |  |  |
|-----|--|-----|--|--|--|
| 良い例 |  | 悪い例 |  |  |  |
|-----|--|-----|--|--|--|

| 番号 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0  | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1  | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2  | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 3  | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 4  | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 5  | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 6  | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 7  | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 |
| 8  | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 9  | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 | 9 |

| 問  | 解答欄       | 問  | 解答欄       | 問  | 解答欄       | 問  | 解答欄       | 問   | 解答欄       |
|----|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|-----|-----------|
| 1  | ① ② ③ ④ ⑤ | 21 | ① ② ③ ④ ⑤ | 41 | ① ② ③ ④ ⑤ | 61 | ① ② ③ ④ ⑤ | 81  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 2  | ① ② ③ ④ ⑤ | 22 | ① ② ③ ④ ⑤ | 42 | ① ② ③ ④ ⑤ | 62 | ① ② ③ ④ ⑤ | 82  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 3  | ① ② ③ ④ ⑤ | 23 | ① ② ③ ④ ⑤ | 43 | ① ② ③ ④ ⑤ | 63 | ① ② ③ ④ ⑤ | 83  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 4  | ① ② ③ ④ ⑤ | 24 | ① ② ③ ④ ⑤ | 44 | ① ② ③ ④ ⑤ | 64 | ① ② ③ ④ ⑤ | 84  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 5  | ① ② ③ ④ ⑤ | 25 | ① ② ③ ④ ⑤ | 45 | ① ② ③ ④ ⑤ | 65 | ① ② ③ ④ ⑤ | 85  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 6  | ① ② ③ ④ ⑤ | 26 | ① ② ③ ④ ⑤ | 46 | ① ② ③ ④ ⑤ | 66 | ① ② ③ ④ ⑤ | 86  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 7  | ① ② ③ ④ ⑤ | 27 | ① ② ③ ④ ⑤ | 47 | ① ② ③ ④ ⑤ | 67 | ① ② ③ ④ ⑤ | 87  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 8  | ① ② ③ ④ ⑤ | 28 | ① ② ③ ④ ⑤ | 48 | ① ② ③ ④ ⑤ | 68 | ① ② ③ ④ ⑤ | 88  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 9  | ① ② ③ ④ ⑤ | 29 | ① ② ③ ④ ⑤ | 49 | ① ② ③ ④ ⑤ | 69 | ① ② ③ ④ ⑤ | 89  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 10 | ① ② ③ ④ ⑤ | 30 | ① ② ③ ④ ⑤ | 50 | ① ② ③ ④ ⑤ | 70 | ① ② ③ ④ ⑤ | 90  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 11 | ① ② ③ ④ ⑤ | 31 | ① ② ③ ④ ⑤ | 51 | ① ② ③ ④ ⑤ | 71 | ① ② ③ ④ ⑤ | 91  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 12 | ① ② ③ ④ ⑤ | 32 | ① ② ③ ④ ⑤ | 52 | ① ② ③ ④ ⑤ | 72 | ① ② ③ ④ ⑤ | 92  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 13 | ① ② ③ ④ ⑤ | 33 | ① ② ③ ④ ⑤ | 53 | ① ② ③ ④ ⑤ | 73 | ① ② ③ ④ ⑤ | 93  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 14 | ① ② ③ ④ ⑤ | 34 | ① ② ③ ④ ⑤ | 54 | ① ② ③ ④ ⑤ | 74 | ① ② ③ ④ ⑤ | 94  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 15 | ① ② ③ ④ ⑤ | 35 | ① ② ③ ④ ⑤ | 55 | ① ② ③ ④ ⑤ | 75 | ① ② ③ ④ ⑤ | 95  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 16 | ① ② ③ ④ ⑤ | 36 | ① ② ③ ④ ⑤ | 56 | ① ② ③ ④ ⑤ | 76 | ① ② ③ ④ ⑤ | 96  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 17 | ① ② ③ ④ ⑤ | 37 | ① ② ③ ④ ⑤ | 57 | ① ② ③ ④ ⑤ | 77 | ① ② ③ ④ ⑤ | 97  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 18 | ① ② ③ ④ ⑤ | 38 | ① ② ③ ④ ⑤ | 58 | ① ② ③ ④ ⑤ | 78 | ① ② ③ ④ ⑤ | 98  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 19 | ① ② ③ ④ ⑤ | 39 | ① ② ③ ④ ⑤ | 59 | ① ② ③ ④ ⑤ | 79 | ① ② ③ ④ ⑤ | 99  | ① ② ③ ④ ⑤ |
| 20 | ① ② ③ ④ ⑤ | 40 | ① ② ③ ④ ⑤ | 60 | ① ② ③ ④ ⑤ | 80 | ① ② ③ ④ ⑤ | 100 | ① ② ③ ④ ⑤ |



## 分担研究報告書

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病総合研究事業）  
「保健・医療の栄養管理サービスの評価に基づく専門的人材育成システム構築に関する研究」

### 専門的実践能力（コンピテンシー）を指標とした大学院生の到達度把握

研究分担者 永井 成美（兵庫県立大学環境人間学部 准教授）  
赤松 利恵（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 准教授）  
伊達 ちぐさ（兵庫県立大学環境人間学部 教授）  
研究協力者 長幡 友実（修文大学健康栄養学部 講師）

#### 研究要旨

本研究では、新しい管理栄養士教育の成果を検証するとともに、管理栄養士が社会の要求に応えられる栄養管理の専門職として養成されるための教育システム構築のための基礎資料を得ることを目的として、管理栄養士養成施設に在籍する大学院生の専門的実践能力（コンピテンシー）到達度を把握するための基礎調査を行った。昨年度、我々が開発したコンピテンシー測定項目（40 項目）を用いて大学院をもつ全国の管理栄養士養成施設（76 施設）に在籍する修士課程の大学院生を対象とし、2011（平成 23）年 10 月～12 月に質問紙調査を行った。63 施設から回答用紙が返却され、461 名の有効な回答マークシートを得た（有効回答率 99.8%）。回答者 461 名を、平成 16 年度以前卒業生 7.7%（35 名）、平成 17 年度以降卒業生 80.7%（372 名）、管理栄養士養成施設卒業生でない者 10.7%（49 名）の 3 群に分け、各コンピテンシー項目の平均点数を比較した。その結果、40 項目中 32 項目において、3 群間の平均点数に有意差が認められた。3 群間で差が認められなかった項目は、「食を通して人々の健康と幸せに寄与したい」や「関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する」、「調査研究によって得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する」、「対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する」等であり、基本コンピテンシーの意欲に関する項目や調査研究に関する項目、行動科学の理論やモデルに関する項目であった。3 群間において、多くのコンピテンシー項目の平均点数に有意差が認められたという結果には、年齢や社会人院生である等の属性が影響していると考えられることから、今後、これらの要因を考慮した解析を行っていく必要がある。

#### A. 目的

高度な専門的知識と技術を持った資質の高い管理栄養士の育成のため、2002（平成 14）年にカリキュラムが改正された。現在、新しいカリキュラムによる養成教育を受けた学生が新しい管理栄養士国家試験に合格し実社会で活躍するようになって 5 年が経過した。本研究では、新しい管理栄養士教育の成果を検証するとともに、管理栄養士

が社会の要求に応えられる栄養管理の専門職として養成されるための教育システム構築のための基礎資料を得ることを目的として、管理栄養士養成施設に在籍する大学院生の専門的実践能力（コンピテンシー）到達度を把握するための基礎調査を行った。

## B. 方法

### 1. 調査対象者と調査手順

大学院をもつ全国の管理栄養士養成施設に在籍する修士課程の大学院生を対象とし、2011（平成23）年10月～12月に質問紙調査を行った。社団法人全国栄養士養成施設協会が作成した、「栄養・保健関連大学院設置状況（2011）」に記載されている69施設に、ホームページ検索により設置が判明した7施設を加え、合計76施設に質問紙を送付した。

### 2. 調査項目

#### 1) コンピテンシー測定項目（全40項目）

管理栄養士養成施設の大学院生で到達が必要なコンピテンシー項目は、昨年度、我々が開発した40項目とした。これらの項目は、基本コンピテンシー（表中ではAと示す、以下同様）、共通コンピテンシー（B）、職域別コンピテンシー（C）に分かれる。基本コンピテンシーは、管理栄養士としての価値観、自己確信、意欲、態度に関する4項目、共通コンピテンシーは、倫理的配慮、コミュニケーション、調査研究に関する8項目（B1）、栄養・食品スキルに関する10項目（B2）、PDSサイクルに関する11項目（B3）であり、職域別コンピテンシー（C）は、公衆栄養、臨床栄養に関する各3項目、給食経営管理に関する1項目、全7項目であった。

基本コンピテンシーの4項目は、全くそう思わない（1点）そう思わない（2点）、どちらともいえない（3点）、そう思う（4点）かなりそう思う（5点）の5段階評価とした。共通コンピテンシーの29項目および職域別コンピテンシー7項目は、「現時点でどの程度できると考えますか」と質問し、全くできない（1点）、できない（2点）、どちらともいえない（3点）、できる（4点）、十分にできる（5点）の5段階評価とした。コンピテンシーに関するすべての項目はマークシート（1～5の数字の塗りつぶし）での回答とした。

#### 2) 属性に関する項目（全19項目）

属性に関する項目は全12項目とした。年齢、

性別の他、大学院での在籍年数、管理栄養士養成施設の卒業生か、卒業年次、卒業研究の実施有無、社会人院生か、修士論文テーマ、指導教員は管理栄養士免許を有しているか、所属する人材育成コースの特徴、日本栄養士会や学会（研究会）に入会しているか、学会発表や論文投稿経験の有無、修士課程修了後の進路についてマークシートで回答を依頼した。

### 3. 倫理的配慮

質問紙の表紙には、調査の目的、任意の調査であること、回答しないことにより不利益を被ることはないこと、個人の能力を調べるものではないこと、および得られた情報は厳正に管理し調査目的以外には使用しないとの説明を明記した。回答は無記名とした。本研究の実施にあたっては、人権や個人情報に配慮した研究計画書を作成し、兵庫県立大学倫理委員会の審査を受け承認を得た。

### 4. 解析方法

回収したマークシートに二重回答などのミスや汚れがないかを確認し、有効なマークシートのみをスキャナ（ScanSnap S1500, Fujitsu）で読み取り、本調査集計用に発注した集計ソフトを用いて、データをCSV出力した。解析には、IBM SPSS Statistics19 for Windows（IBM社）を用いた。記述統計解析を行った後、対象者を卒業年次により以下の3群、①平成16年度以前管理栄養士養成施設卒業生、②平成17年度以降同施設卒業生、③同施設卒業生でない、に分け、各コンピテンシー得点の比較を行った。各群、各コンピテンシー項目の平均点数を算出し、項目ごとに等分散性の検定を実施後、Kruskal-Wallis検定を行った。データは平均値±標準偏差で表し、欠損値は項目ごとに除外した。有意水準は5%とした。

## C. 研究結果

### 1. 回答数

質問紙は76施設に送付し、63施設から回答用

紙が返却された。大学院生 462 名（63 施設の在籍者総数 525 名の 88.0%から回答があった。このうち、マークシートに不備がなかった 461 名の回答を解析対象とした。質問紙回収数に対する有効回答率は、99.8%（461 名／462 名）であった。

## 2. 基本属性（表 1、表 2）

### 1) 卒業年次により分類した 3 群の人数

平成 16 年度以前卒業生（以下、旧カリ卒業生）が 7.7%（35 名）、平成 17 年度以降卒業生（以下、新カリ卒業生）が 80.7%（372 名）、管理栄養士養成施設卒業生でない者（以下、その他卒業生）が 10.7%（49 名）であった。

### 2) 年齢と性別

回答者 456 名の 78.1%（356 名）が 21-25 歳であった。また、新カリ卒業生は 93.0%（346 名）が 21-25 歳であり、旧カリ卒業生は 51.4%（18 名）、その他卒業生は 36.7%（18 名）が 40 歳以上であった。性別は、回答者 456 名の 80.3%（366 名）が女性であった。また、新カリ卒業生は 78.0%（290 名）、旧カリ卒業生は 94.3%（33 名）、その他卒業生は 87.8%（43 名）が女性であった。

### 3) 大学院在籍年数

回答者 456 名の 51.3%（234 名）が 1 年目、46.5%（212 名）が 2 年目、2.0%（9 名）が 3 年目、0.2%（1 名）が 4 年目であった。また、新カリ卒業生は 30.5%（2 名）、旧カリ卒業生は 11.4%（4 名）、その他卒業生は 6.1%（3 名）が 3 年目であった。

### 4) 卒業研究の実施

回答者 444 名の 88.5%（393 名）が実施有りであった。また、新カリ卒業生は 93.7%（340 名）、旧カリ卒業生は 78.8%（26 名）、その他卒業生は 56.3%（27 名）が実施有りであった。

### 5) 社会人院生

回答者 446 名の 18.4%（82 名）が社会人院生であった。また、新カリ卒業生は 3.8%（14 名）、旧カリ卒業生は 97.1%（33 名）、その他卒業生は 79.5%（35 名）が社会人院生であった。社会人院生のうち、75.3%（61 名）が管理栄養士として勤務していた。

### 6) 修士論文テーマと指導教員

回答者 456 名の 64.5%（294 名）が管理栄養士専門分野 4 科目（栄養教育、公衆栄養、臨床栄養、給食経営管理）以外であった。また、新カリ卒業生は 71.5%（266 名）が 4 科目以外、旧カリ卒業生は 37.1%（13 名）、その他卒業生は 32.7%（16 名）が臨床栄養であった。指導教員は、回答者 455 名の 38.2%（174 名）が管理栄養士免許を有する教員であった。また、新カリ卒業生は 34.8%（129 名）、旧カリ卒業生は 48.6%（17 名）、その他卒業生は 57.1%（28 名）が管理栄養士免許を有する教員であった。

### 7) 所属コースの人材養成の特徴

回答者 454 名の 42.1%（191 名）が教育者・研究者養成であった。また、高度専門職業人養成は新カリ卒業生の 14.9%（55 名）、旧カリ卒業生の 37.1%（13 名）、その他卒業生の 40.8%（20 名）であった。

### 8) 日本栄養士会、健康・医療もしくは食・栄養に関する学会（研究会）への入会

日本栄養士会へは、回答者 455 名の 22.6%（103 名）が入会していた。また、新カリ卒業生は 10.5%（39 名）、旧カリ卒業生は 80.0%（28 名）、その他卒業生は 73.5%（36 名）が入会していた。健康・医療もしくは食・栄養に関する学会（研究会）へは、回答者 456 名の 71.1%（324 名）が入会していた。また、新カリ卒業生は 66.4%（247 名）、旧カリ卒業生は 91.4%（32 名）、その他卒業生は 91.8%（45 名）が入会していた。

### 9) 上記学会（研究会）での発表経験と論文投稿経験

学会発表は回答者 455 名の 51.4%（234 名）が第一著者として経験有りであった。論文投稿は回答者 454 名の 7.5%（34 名）が第一著者として経験有りであった。また、新カリ卒業生は 5.9%（22 名）、旧カリ卒業生は 20.6%（7 名）、その他卒業生は 10.2%（5 名）が第一著者として経験有りであった。

### 10) 修了後の進路希望（あるいは内定）

回答者 451 名の 88.2%（398 名）が就職、8.0%（36 名）が進学希望であった。進学希望のうち、80.6%（29 名）が栄養関連の博士課程を希望していた。就職希望のうち、50.4%（191 名）が採用

条件となる免許は管理栄養士免許であった。免許は採用条件でないのは、新カリ卒業生が 47.3% (150 名)、旧カリ卒業生は 7.7% (2 名)、その他卒業生は 11.1% (4 名) であった。表 2 に示したように、就職希望者のうち、新カリ卒業生で一番多かったのは企業(栄養や食品に関連がある仕事)で 34.1% (110 名) であったが、旧カリ卒業生は病院と研究教育(管理栄養士・栄養士養成施設)がそれぞれ 35.7% (10 名) であった。その他卒業生は病院が 43.2% (16 名) で一番多かった。

### 3. 大学院生自身によるコンピテンシー到達度の評価(表 3)

回答者 456 名の平均点数は、基本コンピテンシー(4 項目)のうち、「食を通して人々の健康と幸せに寄与したい」(基本(A)-3)が  $4.49 \pm 0.72$  点(平均値±標準偏差)、「管理栄養士としての専門的な知識と技術を向上させたい」(基本(A)-4)が  $4.35 \pm 0.82$  点と高得点であった。一方、「自分は管理栄養士という職業に向いている」(基本(A)-2)は  $2.96 \pm 0.92$  点と低得点であった。また、共通コンピテンシーおよび職域別コンピテンシー(36 項目)のうち、「患者・クライアント・住民への倫理的配慮を行う」(共通(B1)-3)は  $3.81 \pm 0.84$  点、「関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する」(共通(B1)-5)は  $3.76 \pm 0.79$  点と高得点であった。一方、「疫学的な考え方にに基づき、地域のアセスメントをする」(職域別(C)-1)は  $2.80 \pm 0.84$  点、「地域の栄養課題を解決するために、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めて改善計画を立てる」(職域別(C)-3)は  $2.84 \pm 0.88$  点と低得点であった。

3 群間で比較してみると、40 項目中 32 項目において、平均点数に有意差が認められた。3 群間で差が認められなかった項目は、「食を通して人々の健康と幸せに寄与したい」(基本(A)-3)や「関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する」(共通(B1)-5)、「調査研究によって得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する」(共通(B1)-8)、「対象者の行動変容を促すために、行動科学

の理論やモデルを活用する」(共通(B2)-9)等であった。

### D. 考察

本研究では、我々が昨年度開発したコンピテンシー項目を用いて、大学院生のコンピテンシー到達度評価を行った。大学院生全体でみると、「食を通して人々の健康と幸せに寄与したい」(基本(A)-3)や、「管理栄養士としての専門的な知識と技術を向上させたい」(基本(A)-4)の基本コンピテンシーが、全体の中で高得点を示しており、管理栄養士として高い意欲と態度を有していることが示唆される。一方で、「疫学的な考え方にに基づき、地域のアセスメントをする」(職域別(C)-1)や「地域の栄養課題を解決するために、ヘルスプロモーション、食環境整備の観点を含めて改善計画を立てる」(職域別(C)-3)といった公衆栄養に関する項目は得点が低かった。本研究と同様の項目を用いた、学部 4 年生に対する調査においても、公衆栄養に関する項目は到達度評価が低い結果となっていることから<sup>2)</sup>、今後の管理栄養士養成教育の課題の一つだといえる。

また、卒業年次により分類した 3 群(旧カリ卒業生、新カリ卒業生、その他卒業生)の到達度評価を比較してみると、40 項目中 32 項目において旧カリ卒業生は新カリ卒業生よりも高得点を示していた。この結果は、旧カリ卒業生は新カリ卒業生よりも年齢が高く、社会人経験者の割合も高い等の属性の影響を受けている可能性が考えられる。今後は、これらの要因を考慮した解析を進めていきたいと考えている。

一方で、共通および職域別コンピテンシーのうち、「関連分野の論文・報告書などからエビデンスに基づく情報を入手し、活用する」(共通(B1)-5)、「調査研究によって得られたデータについて、適切な集計・統計方法を選択し、解析する」(共通(B1)-8)等の調査研究に関する項目や、「対象者の行動変容を促すために、行動科学の理論やモデルを活用する」(共通(B2)-9)といった新カリキュラムに新しく追加された行動科学理論やモ